

2025年7月24日発売

書籍『演劇脳とビジネス脳』

日本を代表する経営者や投資家、首長とSPAC芸術総監督・宮城聰の対談から
AI時代のビジネスにおける新たな視座を得る1冊

各位

平素より、SPAC・静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

1995年に設立されたSPACは、2025年7月21日に設立30周年を迎えました。専用の劇場や稽古場を備える日本唯一の公立劇団として、世界トップレベルの舞台芸術作品の創作・上演はもちろん、毎年約10,000人の中高生を劇場に招待する「中高生鑑賞事業」や人材育成事業、アウトリーチなど幅広い活動を展開してきました。2017年にはフランスで開催される世界最高峰の演劇の祭典「アヴィニョン演劇祭」のオープニング上演を務め、この30年で海外でも知られる日本の劇団にまで成長しました。

これからのSPACは、今までの実績を社会に還元する、“SPACが社会に染み出す”フェーズに移ります。その取り組みの一つとして、このたび日本を代表する9名のビジネスパーソンと芸術総監督・宮城聰の対談を収録した書籍を出版します。

演劇は、常に限られた時間の中で様々な個性を持った俳優・スタッフとともに行われます。そこには、組織運営、リーダーシップ、即興的な判断力、観客（顧客）を魅了するストーリーテリングなど、ビジネスの現場に共通する様々な知見が凝縮されています。そしてSPACは既に、ズキ株式会社での新任役員研修をはじめ、こうした考えをビジネスの現場に応用する試みをはじめています。

ぜひ本書を手にとっていただくと共に、演劇×ビジネスが生み出すイノベーションにご注目ください。

『演劇脳とビジネス脳』 価格 1,800円(税別)

西村真里子、宮城聰 編著

四六判・並製・226ページ 講談社エディトリアルより出版

※SPAC公式サイト・窓口のほか、「TECH BEAT Shizuoka2025」会場にて販売
※Amazon、楽天等のネット書店および静岡市内書店にて販売(書店での発売は8/1頃)
※Kindleストアで電子版を販売

■対談者および対談タイトル

経営者は舞台に立つ役者—独自性が生む革新と共感の力

サントリーホールディングス株式会社代表取締役会長 新浪剛史

個の人間力を信じ抜くチーム経営

ズキ株式会社代表取締役社長 鈴木俊宏

世界一を目指すためのアウトサイダーの視点、たとえば

株式会社GENDA取締役 申真衣

AI時代に必要な「解のない問い」に向き合う演劇の力

投資家・連続起業家 孫泰蔵

「考える脳」を鍛える—経営者に求められる思考力の深化

鈴与株式会社代表取締役社長 鈴木健一郎

「見えない価値」を見極め、イノベーションを生む組織

マネックスグループ株式会社取締役兼代表執行役社長CEO 清明祐子

身体性を取り戻す—演劇が経営にもたらす視点

株式会社鳥善代表取締役 伊達善隆

「演劇イノベーション県」に向けた仕掛けづくり

演劇が伝えるビジネスの「時間軸」のあり方

株式会社しずおかフィナンシャルグループ取締役会長 中西勝則

■編著者プロフィール



西村 真里子(にしむら・まりこ)

株式会社HEART CATCH 代表取締役/プロデューサー

日本IBM、Adobeを経て独立。テクノロジーとアート思考を融合させた新規事業開発、戦略設計、スタートアップ支援教育プログラム開発を官民連携で国内外に渡り推進。武蔵野美術大学客員教授。



宮城 聡 (みやぎ・さとし)

演出家、SPAC芸術総監督、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長

2007年SPAC芸術総監督に就任。自作の上演とともに世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を招聘、また中高生鑑賞事業をはじめとする人材育成にも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営を行う。代表作に『女王メディア』『マハーバーラタ』『アンティゴネ』など。近年はベルリン国立歌劇場などでオペラの演出も手掛ける。

■SPAC・静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center:SPAC)

専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。2025年7月、SPACは財団設立30周年を迎えました。

演劇×ビジネスの新たな取り組み事例

●スズキ株式会社での新任役員を対象とした演劇ワークショップ

現代社会では、SNSをはじめ「如何に上手く発信できるか」が重視されていますが、本ワークショップでは「受信力」にフォーカスを当てます。様々な相手に対して常に「役割を演じている」という意識を持ち、プロの演出家・俳優の指導を通じて発声・表情・姿勢などの表現を見直すことで、一方的なプレゼン力ではなく対話力を磨き、社員の声に耳を傾け、問題解決に取り組める経営層を育てることを目的としています。



●株式会社ソミックトランスフォーメーション「SUPPOT」×俳優によるグリーティング

SPAC主催の国際演劇祭「SHIZUOKAせかい演劇祭」でのグリーティングパフォーマンスに作業支援ロボット「SUPPOT」を組み込み、演劇的な「役割」を与えることで、企業・製品のPRや新たな活用方法を提示しました。



●親子を対象にしたアートイベントでの静岡鉄道株式会社との共同企画

小学生とその保護者が“同級生”になって一緒に授業を受けるアートイベント「すぱっくおやこ小学校」の1授業を「しずてつ未来プロジェクト」と共に実施。2年目となる今年は、静鉄音羽町駅ビルをリノベーションした商業施設「SHiiiTO」を会場とし、より街に開かれたイベントを目指しました。沿線の賑わい創出や移住促進など、静岡鉄道が取り組む地域課題に、演劇的手法でアプローチしました。



「TECH BEAT Shizuoka2025」にて、「演劇脳とビジネス脳」をテーマにトークセッションを行います。

○日時・会場: 7月25日(金)10:10~11:00 グランシップ1F大ホール「海」

○登壇者: スズキ株式会社代表取締役副社長 石井直己 氏

SPAC芸術総監督 宮城聡

ソニーグループ株式会社デジタル&テクノロジープラットフォーム技術戦略部門 主任研究員 戸村朝子 氏



TECH BEAT Shizuokaとのコラボレーションにより、演劇の力でビジネスの可能性を広げる1泊2日のワークショップ実施を検討中！
★日時、会場、募集等の詳細は、追って公開いたします。

『演劇脳とビジネス脳』ほか各種事業に関するお問い合わせは、SPAC・静岡県舞台芸術センターまでご連絡ください。
SPAC・静岡県舞台芸術センター 担当：制作部・内田稔子・森照寛
Tel:054-208-4008(静岡県舞台芸術公園)／Fax:054-203-5732／E-mail:communication@spac.or.jp

